

1. わたしはまことのぶどうの木であり、わたしの父は農夫です。わたしの枝で実を結ばないものはみな、父がそれを取り除き、実を結ぶ者はみな、もっと多く実を結ぶために、刈り込みをなさいます。あなたがたは、わたしがあなたがたに話したことばによって、もうきよいのです。(15:1-3)
  - a. 先週はイエスがぶどうの木、父なる神が農夫、キリストにある私たちは実を結ぶ枝であることを学んだ。イエスの最後の神性宣言 (“I am”) は実りある人生を送るためのキーワードである。神は私たち一人一人に、この地上で意味のある、実りある人生を送るよう望んでおられる。
  - b. ぶどう園の世界において枝というものは非常に貴重で、良い農夫は枝をぶどう棚にかけたり、洗ったり、刈り込んだり、できる限りの努力をして枝が実をつけるように世話をする。
  - c. 枝が実を付けられなく理由の一つに、枝は自分の力では地面から持ち上がって伸びることができない、ということが挙げられる。支えのない枝は地面に這って伸び、葉は泥がついて日光をさえぎり、実をつけるための養分を摂ることができない。良い農夫がこのような枝を地面から持ち上げ、洗うとやがて枝は実を結ぶようになる。
  - d. すでに実を結んでいる枝については刈り込みがなされ、さらに実を結ぶようになる。刈り込みをされるのは一番嫌なことかもしれないが、この世で意味のある実りある人生を送るために欠かせないことである。その内容は人それぞれに違って見えるかもしれないが、コンセプトは同じである。それは謙遜になる過程であり、イエスに対して忠実であり続ける訓練である。
2. わたしにとどまりなさい。わたしも、あなたがたの中にとどまります。枝がぶどうの木についていなければ、枝だけでは実を結ぶことができません。同様にあなたがたも、私にとどまっていなければ、実を結ぶことはできません。わたしはぶどうの木で、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人の中にとどまっているなら、そういう人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないからです。(15:4-5)
  - a. 実を結ぶための秘訣は非常に簡単だが、あまりにも単純であるため見過ごしてしまうことが多い。イエスキリストにとどまることである。
  - b. イエスにとどまる (abide) とはどういうことだろう？他の訳では remain, dwell, tarry, stay などの言葉が使われている。
  - c. 神が私たちに刈り込みをされる時、時として私たちはその意味がわからず、拒否したり、逃げたり、迷ったりする。
3. だれでも、もしわたしにとどまっていなければ、枝のように投げ捨てられて、枯れます。人々はそれを寄せ集めて火に投げ込むので、それは燃えてしまいます。(15:4-6)
  - a. 前にも述べたように枝が多くの実を結ぶために農夫はできる限りのことをする。しかし枝はいずれは切り離されなくてはならない時が来る。
  - b. ただし、農夫が枝を切ることで、教会での弟子訓練とは別である。神が誰かを切り離す場合というのはあらゆる可能性がなくなることであるが、この文脈ではイエスのグループから切り離されたのはユダだけであった。神は恵み深いお方で、ユダは3年もの間献金を盗み、最終的にはイエスを裏切った。イエスはすべてをご存知であったが彼に悔い改めの期間を与えられた。
  - c. 教会の中では過ちがあった場合すぐに正さなければならない。たとえば児童虐待は子どものための訓練ではない。
  - d. 誰でも人生のどこかで、戻ったり、とどまったり、接ぎ木されなければならない時があるかもしれない。